



町営バス 新しい運行でスタート!

久米島町では、町営バスの運行管理を有限会社ダイトウに委託し、4月1日から新しい体制での運行が始まりました。町営バスは、地域の大切な移動手段として、高齢の方や子どもたちなど多くの町民の生活を支えています。今回の委託により、運行の効率化やサービス向上を目指し、これまで以上に安心して利用できるようになります。今後も安全で快適なバス運行に努めてまいります。今後とも町営バスをどうぞよろしくお願いいたします。

交通事故のない町を目指して

4月7日(月)町役場において春の全国交通安全運動に合わせて「交通安全運動開始式」が行われました。「てをあげて くるまにおしらせ ぼくはここ」をスローガンのもと、一人ひとりが交通ルールを守り、正しいマナーを身につけること、そして自分たちの手で安全な道路をつくっていくことを目指しています。事故を防ぐために、みんなで力を合わせていきましょう。

交通ルールを守って、お互いに思いやりをもちながら、事故のない明るく元気な久米島を目指しましょう。



伝統を未来へつなぐ一歩 久米島紬研修生が卒所

令和6年度久米島紬後継者育成事業の卒所式が3月21日に久米島紬の里ユイマール館で行われ、研修生3名に桃原町長から終了証書が授与されました。この事業は、久米島紬の技術や文化の継承を目的に実施されているもの。研修が終了した3名は、今後は組合員として活動します。

久米島紬事業協同組合では、今年度も研修生を募集しています。詳細については、当組合(☎985-8333)までお気軽にお問合せください。 申込メ切 5月15日(木)

海のいのちを未来へ シンポジウムで探る共存のかたち

3月24日、イーフ情報プラザで「久米島における海草藻場とアオウミガメの共存の在り方」をテーマにシンポジウムが開催されました(主催:国立研究開発法人 水産研究・教育機構、共催:久米島町、後援:久米島漁協)。絶滅危惧種アオウミガメの急増により、世界各地で藻場の衰退が報告される中、久米島海域でも深刻な影響が出ており、水産業への打撃が懸念されています。シンポジウムでは、最新の研究結果が報告され、専門家による共存の可能性や今後の対策について議論が行われました。

